

2022（令和4年度）年度 福山市立城北中学校 学校経営方針

福山市立城北中学校長

山口 裕三

1 福山100NEN教育 6th year ~ 7th year

さらに、学校・教職員が自主性・自立性を発揮する「新しい仕組み」
「子ども主体の学び」向かって質を求め、実を追求する

- 授業・研究；「認知のしくみ」から学習方法を見直す
- 研修；教職員が起点となる研修の推進→理念と実践を往還しながら、学び続ける研修の推進
- 働き方；1人1台端末を活用した働き方改革のさらなる推進

2 小中一貫教育 城北中学校区 めざす子ども像

自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒

3 学校教育目標

生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成

4 めざすべき姿

めざす学校像

- 1 基礎・基本の徹底と主体的な学びを育てる学校
- 2 マナーの育成と感動あふれる学校
- 3 家庭や地域と連携し、みんなが誇れる学校

めざす生徒像

- 1 自ら考え学ぶ意欲的な生徒
- 2 主体的に判断し行動する自律した生徒
- 3 豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする生徒

めざす教師像

- 1 確かな授業力と指導力を身につけた教師
- 2 教育愛と熱意を表現できる教師
- 3 生徒・保護者・地域から信頼される教師

城北の品格と誇り

5 経営方針

- (1)学校教育目標の実現を組織的に、全員で目指す学校
- (2)様々な社会の変化に対応し、教育活動の向上を目指す、自主性・自立性のある教職員
- (3)生徒、教職員、保護者、地域が誇りに思える学校

- (1)「組織的に」とは、みんなが同じ目標に向かって歩むこと。
めざす姿と組織の方針のもと、自分の役割に主体性を持って行動に移すこと。
- (2)「GIGAスクール構想」がスタートした中で、様々な変化に対応できるように「自主性・自立性」をもって生徒個々の学びに適した「個別最適な学び」を推進し、生徒と共に「学びが面白い」を探究することができる教職員。
- (3)地域、保護者、生徒が誇りに思える学校を創るのが私達、教育公務員の仕事。
誇りに思える学校が、私たち教職員の誇り。

6 本年度の方向性

- ① 新たな城北中学校を創っていくために、既成概念にとらわれず、チャレンジする精神で前へ進んでいく。
- ② 今までの教育と ICT を組み合わせ、様々な課題を解決し、「教育の質の向上」につなげて、生徒個々の「個別最適な学び」（個に応じた学習）と、他者や社会とつながる「協働的な学び」を実現し、社会に必要な「資質・能力」（課題解決能力、創造性や情報活用能力など）の育成を図る。
- ③ 全ての教育内容に「主体性」を意識した指導。主体性のある生徒。主体性のある教職員。
 - ・生徒が自ら考え、行動できるようにするための指導の工夫と研究、そして実践。
 - ・「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を意識した指導。
- ④ 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現。
 - ・これまでの実践と ICT との最適な組合せを実現。
 - ・ICT を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実。
 - ・特別な支援が必要な生徒へのきめ細かな支援や個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など生徒一人一人に寄り添った指導。

7 今年度の重点課題

- 1 GIGA スクール構想に伴い、自分の授業や指導のどこが、どう変わったのか。そのことで生徒がどう変わったのか。
- 2 1人1台端末の活用で、自身の「働き方改革」の目標と取組、そして結果はどう変わったのか。
- 3 学校評価自己評価表の評価に伴う取組と改善策に整合性があるか。

● 自ら考え学ぶ生徒（主体性）の育成 【生徒】

- ① 主体的に学ぶ意欲・態度の向上
- ② 確かな基礎学力の向上
- ③ 自律した行動のできる生徒の育成

● 教職員の資質・能力の向上 【教職員】

- ① ICT 機器を活用した専門教科の授業力向上
- ② 道徳・総合・特活の授業力の向上
- ③ 生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした、生徒指導力の向上

● 地域に貢献する学校 【学校】

- ① 取組や活動の地域への発信
- ② 総合的な学習の時間を軸にした、地域理解・社会貢献活動の充実
- ③ 地域行事やボランティア活動への積極的な参加
学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止めている。
 - ・教職生涯を通じて学び続けている。
 - ・子供一人一人の学びを最大限に引き出している。
 - ・主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている。